

みのわっ子だより号外

来年度から新しい教育課程が始まります

来年度より新学習指導要領のもと、新しい教育課程が始まります。先週豊中市教育委員会より配布されたおたよりにもありましたが、改定により増える標準授業数を確保することと、勤務時間を適正化（働き方改革）することの両方が求められており、本校としても丁寧な議論が必要です。



2学期より来年度に向けて、学校行事の見直しや、時間割、あゆみの改定などについて、各部会、各委員会で具体的に話し合いを進めているところです。決まりしだい決定事項や変更点については、「みのわっ子だより」でお知らせします。

「学習指導要領の改訂」についてですが、「何がどう変わるのかよくわからない」という声をよく耳にしていますので、最近お聞きした疑問についてお答えします。

1、学習指導要領って何ですか？

全国どの地域でも一定の水準の教育が受けられるように「どの学年」で「どんなこと」を「どれぐらいの時間」をかけて学ぶのかなど、共通の基準を文部科学省が定めています。これが「学習指導要領」です。各学年の標準時間数がここに定められています。

2、どうして改訂されるのですか？

変化の激しい時代に合わせるためです。近年、グローバル化やスマホの普及、5G・6Gや人工知能（AI）の活用による技術革新が進み、社会は激しく変化していきます。このように未来の予測が困難な時代の中で、子ども達には変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待されているからです。

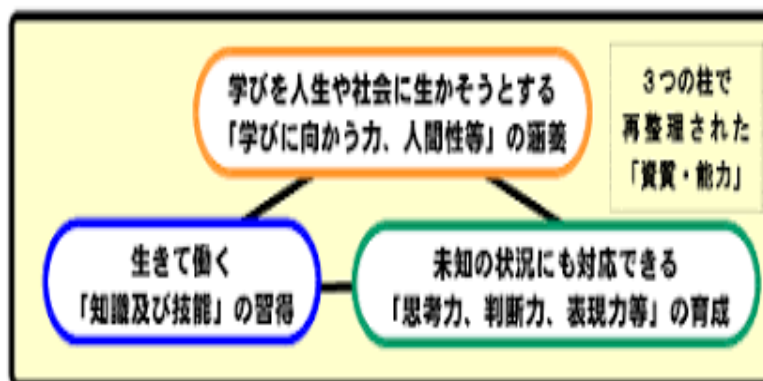


3、新しい学習指導要領で育む「資質・能力」とはなんですか？

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力・人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていく事を目指します。「知識

何ができるようになるか

及び技能」とは、個別の事実的な知識のみでなく、習熟した個別の知識を既存の知識と関連付けて深く理解し、社会の中で生きて働く知識となるものも含むものです。そして、その「知識及び技能」をどう使うかという未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力など」、学んだことを社会や人生に活かそうとする「学びに向かう力・人間性など」を含めた「資質・能力」を総合的にバランスよく育成します。



4、新学習指導要領で学習する内容はどんなのですか？

何を学ぶか

上記の様な「資質・能力」を育むために、発達段階に応じた様々な教育を充実させます。

①言語能力の育成

言語能力はすべての学習の基盤となる力です。国語だけではなく他の教科でも、レポートの作成や議論などの言語活動を行い、教育課程全体を通じて言葉の力を育みます。

②外国語教育

小学校3,4年で、「外国語活動」が週1時間、5,6年で教科としての「外国語」が週2時間導入されます。

高校卒業までに外国語でコミュニケーションできるようになることを目指し、外国語で「聞く」「読む」「話す」「書く」の力を総合的に育みます。

③道徳教育

様々な課題に「自分ならどうするか」を考えることを大切に取り組みます。自分とは異なる意見を持つ他者と議論する授業などを通じて道徳性を育みます。小中学校では「特別の教科 道徳」が新設されます。

④プログラミング教育

小学校では「プログラミング教育」が必修化されます。コンピューターに意図した処理を行わせるための論理的な思考力「プログラミング的思考」などを育みます。プログラミング教育は算数や理科だけではなく、図画工作や社会科の授業にも、プログラミングを取り入れた例などがあり様々な教科で繰り込まれていきます。

⑤このほかにも「理数教育」「伝統や文化に関する教育」「体験活動」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」などの充実が図られます。

5、新学習指導要領で学習の仕方が変わるのですか？

どのように学ぶか

キーワードは「主体的で対話的で深い学び」です。

①「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己キャリア形成（進路や職業等）の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるような学びになっているかという視点。

②「対話的な学び」の視点

子ども同士が目標を共有し力を合わせて活動したり、先生・保護者・地域の人との対話や、本や新聞などの文献より優れた考え方を手掛かりに考え、自分の考えを広げたり深めたりするような学習になっているかという視点。

③「深い学び」の視点

学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識をより深く関連付けてより深く理解したり、情報を精選して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

このように、子ども達が能動的に学び続ける視点から、これまで本校が教育目標として『「み」見て聴いて積極的に考える子どもの育成』をさらに進めていく中で、「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」を重視して、学校の授業を改善していきます。子どもたちが学んだ一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」「たのしい」といえる授業、周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業を工夫して、子ども達の資質・能力を育んでいきます。

